

2024 年度 第 3 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録	
日時	2024(令和 6)年 11 月 18 日(金)15:30-18:30
場所	Web 開催
出席者	(順不同、敬称略) 理事:玉腰暁子(理事長)、井上真奈美(副理事長)、関根道和(副理事長)、岡村智教、三宅吉博、曾根博仁、片野田耕太、川崎良、有馬久富、村上義孝、福島若葉、郡山千早、井上茂、三浦克之、後藤温、寶澤篤 第 35 回学術総会会長:安田誠史 第 36 回学術総会会長:金子聰 監事:横山徹爾、和田恵子 学会事務局:菊池宏幸(事務局長)、糟谷里美
欠席者	(順不同、敬称略) 小橋元、近藤尚己、中田由夫

- 理事会に先立ち、玉腰理事長より、理事・監事 18 名全員の出席により理事会が成立していることが確認された。

<協議事項>

- 2024 年度第 2 回日本疫学会理事会議事録（案）は承認された。
- 2024 年度臨時理事会議事録（案）は承認された。
- 2024 年度事業報告（案）について、玉腰理事長より説明があり承認された。また、2024 年度収支予想について、菊池事務局長より次の説明があり、承認された。会費収入は概ね予算通りである。事業収入が 500 万円ほど増収しているのは、学術総会の収入が予算より約 600 万円多かったためである。一方、事業支出が約 400 万円減であるのは、動画作成費用として計上している金額が施行されなかったためである。また、学会事務局の人件費は職員 1 名の退職に伴い、約 200 万円の差異が生じている。
- 2025 年度事業計画（案）について、玉腰理事長より説明があり承認された。2025 年度予算書（案）について、菊池事務局長より次の説明があり、承認された。事業活動収入が 2,000 万円減少した予算を組んでいる。これは、科研費が終了することや学術総会予算収入が抑えられていることなどによる。委員会活動支出について、2025 年度の事業計画として動画作成や広報関係ホームページの改訂などの費用 500 万円を計上した。学会人件費は、職員数の減少により、2024 年度の支出予想より約 100 万円少なく計上している。

5. 日本疫学会奨励賞の選考結果について、奨励賞選考委員会の井上（真）委員長より下記のとおり提案があり、承認された。
 - 奨励賞選考の結果、受賞者は次の4名である。（五十音順、敬称略）
 - 井上 浩輔（京都大学）
 - 片桐 諒子（千葉大学）
 - 竹内 研時（東北大学）
 - 松山 祐輔（東京医科歯科大学）
6. 奨励賞選考委員会の井上（真）委員長より、委員会を構成する際の若手研究者委員の公募について提案があり、今後検討を行なっていくことになった。
7. 功労賞受賞者の推薦および名誉会員の推薦について、岡村担当理事より下記のとおり提案があり、承認された。（敬称略）
 - 功労賞受賞者推薦：三浦克之（第34回日本疫学会学術総会会長）
 - 名誉会員推薦：松村康弘
8. JE編集委員会の活動について片野田委員長より、来年度科研費申請（国際情報発信強化）を見送ったため、今年度まで科研費で支出していた編集委員会関連費用を一般会計に組み入れる必要がある。細かい費目は現在整理中であるとの説明があり、その方向で検討を進めていくことになった。
9. 動画作成タスクフォースの活動について、福島TF長より、これまでの経緯の説明がなされ、次の点について検討が行なわれ、承認された。①TFメンバーの長嶺由衣子委員が公私ともに多忙なため辞任の意向があった。②動画の中の解説は、疫学会会員など「人」が話しているところを収録するのではなく、何らかのキャラクターを起用して解説してもらうことを考えている。疫学会やJEのHPに登場するロゴをベースに、イラストレーターにキャラクター化し進めていく。③動画の最初と最後に、玉腰理事長からのメッセージ動画を作成する。あるいは理事長ご本人の出演が難しければ、似顔絵なども一案である。④疫学会側でのコンテンツ（PPT）FIXにあたっての、理事会での承認プロセスについて、定期理事会で間に合わない事案については、メール審議でも可能であることが承認された。
10. 疫学専門家委員会の井上茂委員長より、2024年の疫学専門家認定申請においては、新しい会員管理システム（2023年10月に新システムへ移行）へ旧疫学専門家電子申請システムを搭載して対応したため、システム上の利便性が不十分であ

ったことから、改修が必要であるとの説明があり、新しい会員管理システムに対応した電子申請システムへの改修を進めることが承認された。

11. 選挙規定検討委員会の三浦委員長より、代議員立候補時の年齢上限の延長について、これまでの経緯と委員会での検討結果の説明がなされた。今後、理事長・副理事長でさらなる検討を行なっていくことになった。
12. 総務委員会の菊池委員長より、昨今の物価上昇に伴い、現行の旅費規程の範囲内では宿泊先の確保が困難となることが懸念されるため、旅費規程の変更を行ないたい旨の提案があり、承認された。変更案（旅費規程第 14 条に第 2 項）は、次の文言に下線部を追加する。
（日当及び宿泊料）第 14 条
日当及び宿泊料は、別表 1 により定額を支給する。
2 前項の規定にかかわらず、業務上の都合又は旅行先の物価等その他やむを得ない事情により、別表 1 に規定する宿泊料を超える宿泊施設の利用を要する場合は、旅行命令者の承認を得て、当該宿泊施設の実費相当額の宿泊料を支給することができるものとする。ただし、この場合にあっても、1 日当たりの宿泊料は、別表 1 に規定する額の 2 倍を上限とする。
13. 第 37 回日本疫学会学術総会（2027 年開催）について、井上真奈美理事（国立がん研究センター）に大会長を依頼し、開催地は東京との提案があり、承認された。

<報告事項>

1. 玉腰理事長より次の報告があった。
 - 日本医学会連合 加盟学会連携フォーラムの申請について、「第 79 回日本栄養・食糧学会 日本医学会連合加盟学会連携フォーラム」（2025 年 5/23～5/25 @名古屋大学、座長：曾根博仁）への連携学会として連名した。
 - 2024 年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の推薦と結果の報告（敬称略）。医学賞：祖父江友孝（受賞） 医学研究奨励賞：藤原和哉（受賞）
 - 『はじめて学ぶやさしい疫学』増刷（4000 部）について報告があった。
 - 2018 年に発表した「日本疫学会将来構想委員会報告書」について、5 年が経過しているため、これまでの活動内容を評価し、今後の方向性を検討していくことになる旨の説明があった。
2. 各委員会等から次の報告があった。

- 1) 疫学リソース利用促進委員会の岡村委員長より、リンケージ基盤推進 WG における 2024 年度の活動について、次の報告があった。①これまでの調査をまとめていくとともに、必要に応じて追加の調査を行っていく ②障害を取り除くべく関係省庁に働きかける ③現在 WG 長を委員長が兼務しているが、適宜メンバーを補充し、WG 長を専任して体制を整える。

また、既存疫学研究データ資源化・共有・活用 WG の三宅 WG 長より、日本疫学会将来構想検討委員会報告書に基づき、代議員へ既存疫学研究データの管理と活用についてアンケート調査を行ない、9 名より回答があり、8 名は「ご報告いただく疫学研究はございますか？」の質問になしと回答、1 名のみ有りと回答、今後も議論を継続するとの報告があった。

- 2) 学会等連携推進委員会の曾根博仁委員長より、次の報告があった。①日本医学会加盟学会に共通する課題について個別学会を超えて検討し、分野横断的な学術連携・交流を推進することを目的とした日本医学会連合加盟学会連携フォーラム共済事業について、日本栄養・食糧学会からの申し出により共同応募することとした。②日本医学会連合社会部会リトリートは、社会部会加盟 19 学会所属の若手研究者の相互交流を通じ、加盟学会間の交流ならびに若手研究者の育成とキャリア形成の充実に資するために開催されるもので、本年度は臨床系学会も参加し、「超少子高齢社会における Personal Health Records (PHR) の活用と課題～社会医学の未来に向けて～」というテーマで実施されることとなっている (2025 年 2/22～2/23)。本学会は企画担当学会として、理事クラス企画委員として本委員会の曾根博仁委員長、若手企画委員として永吉真子本委員を派遣している。また、本学会員全員に対し参加者募集の通知を行ない、次の 3 名を派遣することになった。(町田征己先生、中舘美佐子先生、安福祐一先生)

また、禁煙推進学術ネットワーク連絡 WG の片野田 WG 長より、次の報告があった。①第 6 回禁煙推進学術ネットワーク学術会議 (2024 11/16) を日本疫学会 (片野田)、日本臨床腫瘍学会 (福田実先生)、日本歯周病学会 (稲垣幸司先生) の共催で開催した。②喫煙の健康影響およびたばこ対策に関する企画の立案と運営については、第 35 回日本疫学会学術総会@高知においてシンポジウムを開催する予定である (テーマ：疫学と法律 ―疫学は法規制や訴訟にどう貢献できるか)。

- 3) 多様性(ダイバーシティー)促進委員会の村上委員長より、現在会員情報の分析を次のように行なった結果が報告された。①年齢別にみた会員種別の分布 ②年齢別にみた地域ブロックの分布 ③地域ブロック別にみた年齢分布 ④職種別にみた年齢分布 ⑤取得学位別にみた年齢分布 ⑥専門分野の分布 ⑦専門分野別にみた年齢分布。今後これらの結果を踏まえた対策を検討していく。

- 4) 広報委員会の有馬久富委員長より、日本疫学会ニュースレターNo. 64（2024年10月18日発行、編集担当：桑原恵介、特集「プラネタリーヘルスと疫学」）の発行について報告があった。
- 続いて、疫学リテラシー普及促進WGの福島WG長より、ホームページの一般向けコーナー「疫学用語の基礎知識」編集作業の進捗状況について、目次案が作成され、それに基づき担当者を割り振り、作業を進めているとの説明がなされた。
- 5) JE編集委員会の片野田委員長より次の報告があった。
- 編集委員会メンバーについて、浦山ケビンAEが今年で任期終了になるため、後任を選定中であり、今後メール審議に諮る予定である。
 - COPE(Committee on Publication Ethics)再申請済みであり、年会費が407ポンド（約74,000円程度）である。8名のAEを登録している。
 - インパクトファクター：3.7（2023）（3.5 for 5-year）
 - 特集号は、全体的に原稿提出が遅れているが継続依頼中である。
 - 2024年第2回編集委員会を6～7月に開催予定である。
 - 投稿数は2024年9月末現在377。2023年が377だったので今年は大幅に上回り500近くになるペース（2019年366、2020年635、2021年513、2022年368）。日本、中国、台湾、韓国、米国の順。
 - 2024年採択率は9月末現在7%（査読有20%）。年間掲載原著論文数最大80編程度をキープしている。
 - 科研費（国際情報発信強化）は2024年度までであるが、JE掲載論文のPR強化を継続して行なっている。
 - 編集委員会関連イベントは次のとおりである。①日本疫学会プレセミナー 2025 JE編集委員会企画「美しいグラフィカル・アブストラクトを作る Creating a stunning graphical abstract」（2025/2/12 13:00～15:00@第35回日本疫学会学術総会）②World Congress of Epidemiology 2024（2024/9/24-27@南アフリカ・ケープタウン）
- 6) 国際化推進委員会の郡山委員長より、次の報告があった。①第35回日本疫学会学術総会トラベルグラントについて、15名の応募があり、7名を国際化推進委員会で選考する予定である。②第35回日本疫学会学術総会の委員会企画シンポジウム「International Trends in Epidemiological Research toward Planetary Health (English session)」を開催予定である。③ 国際疫学会（2024年9月24－27日 Cape Town, South Africa）への参加を目的としたトラベルアワードを7名選定した。④日韓台シンポジウムが釜山で開催された（2024年10月25日）。
- 7) 疫学専門家委員会の井上茂委員長より、次の報告がなされた。

- 審査スケジュールは次のとおりである。①申請：8/1～10/1(延長) ②書類審査：11/9～11/29 ③結果発表：12月 ③筆記試験：2025年2/14(高知) ④結果発表と認定証の送付：3月 ⑤認定日：2025年4月1日
- 認定試験の実施に向けて、多くの先生方に出題委員(30名)、ブラッシュアップ委員(12名)としてご協力いただいている。認定試験の準備は以下のとおりである。①出題範囲・領域別出題数の決定(5-7月) ②問題作成(8-9月) ③ブラッシュアップ・最終問題の決定(10-1月)
- 疫学専門家タスクフォースについてその役割と位置づけの説明があった。
- 社会医学系専門医協会における活動では、「友好社員」として三宅吉博理事を推薦することになった。

- 8) 学術委員会の川崎委員長(疫学研究推進WG長兼務)より、疫学研究推進グループについて、次の報告があった。①現在継続中の[放射線疫学推進グループ]および[出生コホートネットワーク]より、2024年度報告書を提出いただく予定である。②第35回日本疫学会学術総会(高知)のメインシンポジウム企画等に参画している。

続いて、疫学教育推進WGの後藤温WG長より、次の報告があった。①サマーセミナーを実施した(2024年8月4日(日)14:00-17:30@日本医科大学)。参加者は29名で、事後のアンケート結果も概ね良好であった。②プレセミナー2025の公募を行ない、4つの企画を選定し、実施準備を進めている(開催：2025年2月12日(水)13:00-17:30@高知市文化プラザかるぼーと)。(企画1: Introduction to systematic review and meta-analysis workshop (in English) / 企画2: Journal of Epidemiology 編集委員会企画 美しいグラフィカル・アブストラクトを作る (Creating a stunning graphical abstract) / 企画3: 貴方の疫学、拡張しませんか? / 企画4: 復元可能性(recoverability)から捉える疫学で使える欠測データ解析—パッケージ任せの欠測補完の一步先へ)

次に、社会実装推進WGの寶澤WG長より、第35回日本疫学会学術総会におけるシンポジウムの開催協力を行なっている旨、報告があった。

- 9) COI委員会の三浦委員長より、次の報告があった。①COI自己申告書の提出依頼の実施 ②COI自己申告書の提出完了後、委員会にて提出書類を確認中である。

3. 第35回日本疫学会学術総会の準備状況について、安田誠史大会長より、プログラムの概要、情報交換会、一般演題募集と審査等について説明があった。準備状況は、以下のとおりである。

- 情報交換会の解除が当初予定した場所から次の会場へ変更した。

➡ OMO7 高知 by 星野リゾート 3F ゴールデンパシフィック

高知市九反田 9-15 (高知市文化プラザかるぽーとから徒歩 2 分)

- 演題登録 (登録期間: 8 月 20 日~10 月 15 日): 一般演題 365 演題 (代議員と疫学専門家 40 名の査読委員による査読・採点 (一演題 2 名による審査) により、口演 55 題 (うち優秀演題賞候補 5 題、トラベルグラント受賞演題 7 題を含む) を決定。

4. 第 36 回日本疫学会学術総会の準備状況について、金子聰大会長より、次の説明があった。①開催日程: 2026 年 1 月 28 日 (水)~1 月 30 日 (金) ②会場: 出島メッセ長崎 ③開催形態: 現地開催の予定 ④テーマ: : Epidemiology and Global Issues: Addressing Diversity, Complexity, and Inclusion ⑤運営委託: 株式会社コンベンションリンクージ 長崎支社 (〒850-0057 長崎市大黒町 9-22 大久保大黒町ビル本館 8 階 TEL: 095-825-1955 FAX: 095-825-1956 E-mail: jea2026@c-linkage.co.jp) ⑥事務局長: 加賀谷 渉 (長崎大学熱帯医学研究所生態疫学分野 助教)

5. 学会事務局活動および庶務について、菊池事務局長より、次の報告があった。

1) 学会事務局活動 (2024 年 6 月~10 月)

- 会費の再請求: 3 年未納者へメール・ゆうちょ払込票再郵送
- 入会・退会手続き (6 月~10 月) 入会 129 人 (うち学生 88 人)、退会 53 人 (自動退会含む)、再入会 3 人
- 会計処理、決算準備
- 疫学会通信の発行 (14 件)、会員専用ページ (会員登録票の整備、疫学専門家認定電子システムとの連携)
- ホームページ更新 (代議員リスト作成・掲載、ニュースレター掲載、サマーセミナー申込み情報掲載、トラベルグラント募集、プレセミナー企画募集・開催案内、疫学専門家特設サイト更新ほか)
- 理事長ミーティング (6/4、7/8、8/8、9/2、10/3)、理事会メール審議
- 委員会活動の支援 (Web 会議開催補助、共催対応、ニュースレター編集補助、JE 編集室ミーティング補助、科研費管理、トラベルグラント対応、プレセミナー主催者募集・開催案内、疫学専門家申請に関する対応、COI 申告書提出依頼・集約・報告、奨励賞選考補助、功労賞・名誉会員選考補助、学術総会決算処理等)
- 関連団体への対応 (日本医学会、日本医学会連合、日本医師会、禁煙推進学術ネットワーク、日本学術振興会、後援名義使用許可、アンケート回答ほか)

2) 庶務報告

- 会員数(2024 年 11 月 1 日現在): 名誉会員 : 34 名、代議員:235 名、普通会員 : 2,478 名(合計 : 2,746 名)
 ※普通会員のうち 2024 年入会学生 : 131 名
- 年会費納入状況 (2024 年 11 月 1 日現在) : 20243 年度会費の納入義務のある会員 : 2,573 名、2024 年度までの会費納入完了者 : 1,915 名、76%)

以上